

長谷川慶太郎・三橋貴明著「大恐慌終息へ？日本と世界はこう激変する」

季白社 2012年4月17日刊を読む

日本企業も年齢や国籍を問わない通年採用へと転換

1. 先進国では平均的な失業率よりも若者の失業率が高くなっています。日本でも大卒者の就職率は年々下がっているようです。日本企業の採用はこれからどうなるのでしょうか。
2. どの国の企業でもそうなのですが、本来、従業員は必要不可欠な人数だけ集めればよいのです。新卒の大学生は仕事についての知識、経験、熟練がないわけで、そんな若者を採用して社内で教育するのは手間と時間がかかりますが、日本企業はこれまでそうしたやり方をしてきました。
3. しかし、国際競争がどんどん厳しくなる中で労働コストもできるだけ引き下げなければなりません。とすれば、人材採用でももっと有効な手段があるというのが世界中の企業の共通した考え方でしょう。つまり、即戦力を期待できる人材しか採用しないということです。
4. 日本流の大企業の人事管理方式、すなわち年功序列型の賃金体系も、採用すれば定年まで勤めることのできる終身雇用制も時代遅れになりました。日本企業でも基本的に即戦力を期待できる人材しか採用しないという傾向が強くなってきています。
5. その結果、大学新卒者の採用数は減ってきていますし、これからもどんどん減っていくでしょう。それどころか、今後は日本企業の毎年4月に入社式を行うという慣行もなくなり、代わって、必要欠くべからざる人材は年齢、国籍、人種、性別を問わず年中採用していくという方向になります。実際にそのような人事政策に切り換える企業も現れてきました。
6. 日本でその先頭を切っている企業が、アパレル・チェーンのユニクロを展開するファーストリテイリングです。昨年12月1日から2013年度の就職活動開始に合わせ1年中いつでも応募ができる通年採用を開始しました。日本での採用予定は500人で、新卒、中途、国籍も関係ありませんが、さらにユニークなのが大学の学年も問わないという点です。大学1年生でも応募できることになります。
7. 年齢、国籍、人種、性別を問わず年中採用するというやり方は、グローバルに展開して国際競争を勝ち抜いていくために不可欠な人事政策になっていくと言えるでしょう。
8. ところで、東京大学が最近、秋入学に切り替えるという方針を打ち出して日本の教育界に大きなインパクトを与えました。日本の教育界に対する東大の影響力は大きいため、東大が秋入学になれば他の大学もそれにならって秋入学に切り替えるだけでなく、高校以下の学校も秋入学になり、日本の学校がすべて秋入学になるという可能性も出てきたからです。

- 9．秋入学にする理由は、まず欧米をはじめ世界の主要大学は秋入学がスタンダードですから日本でも秋入学にすれば大学の国際化につながるということ。また、企業による国境を越えた人材の獲得競争が激しくなっている中、春卒業のままではグローバルな人材採用の流れに遅れを取る恐れがありますが、秋入学なら秋卒業なのでそういう弱点は克服できるのではないかとということです。
- 10．しかし、私はこれからの企業の採用については、春卒業だろうが秋卒業だろうがもはや何の関係もなくなると思います。企業が通年採用になっていけば、いつ大学を卒業すればいいかなどどうでもいいことになるでしょう。東大の秋入学などで大騒ぎする必要はまったくありません。
- 11．ただし、基本的に即戦力を期待できる人材しか採用しないと述べましたが、社内の年齢構成のバランスや最初は仕事ができなくても潜在能力の高い人材を採用するという意味で、やはり大学新卒者もある程度の人数の採用は続いていくでしょう。
- 12．その場合に潜在能力の高い人材を採用するには、新卒者のどのような能力をチェックすればいいのか。この点について日本企業の中でもとりわけ人材不足が叫ばれている金融機関を中心に注目しているのが国語能力です。
- 13．具体的には、きちんとした文章が書けるかどうかを入社試験で厳しくチェックします。そこに注目する最大の理由は、日本においては小中高を通じて国語に対する教育が不十分だからです。つまり、国語能力が不足しているから大学生の能力も下がっているという判断です。
- 14．入社を希望する大学生に作文の試験を行うと、立派な作文を書ける受験者はわずかで、ほとんどがいったい何が書かれているのかさっぱり分からないような作文を書く受験者ばかりだそうです。作文がろくに書けないようでは、いくら他の試験の成績が良くても不合格になります。逆にいえば、立派な作文が書ければどんな企業の入社試験にも受かるということでしょう。
- 15．日本では大学がどんどん増設されてきたお陰で今や大学全入時代になりました。大学の銘柄さえ問わなければ誰でもどこかの大学に必ず入れます。その代わりに、卒業後の企業による採用においては非常に厳しい選別に直面しなければなりません。楽すれば苦ありということです。

P32 ~ 37

[コメント]

自分の考えを自分のことばで論理的に文章で表現することができるか、ことばの力、言語力の大切さを国際エコノミスト、長谷川慶太郎先生も強調なさっておられる。日本語でも英語をはじめとする外国語でも、1つ1つのことばを身に付けた上で正確に用いながら自らの考え方をまとめ上げ、相手にわかりやすく論理的に文章で表現することを大切に考えるべきだ。